



桃一通信

桃井第一小学校
(3390)3178(代)

No. 6 4 9

令和3年 2月号



インクルーシブ教育

校長 高橋 浩平

3学期の始まりとともに、緊急事態宣言が出され、また新型コロナウィルスの感染予防を徹底する形でのスタートとなりました。保護者の皆様におかれましては、日頃より健康カードの記入、マスクの用意等、感染予防対策にご協力いただきありがとうございます。また開放団体の皆様にも感染予防の取組として1月いっぱいの活動自粛にご協力いただき、ありがとうございました。

さて、これまで学校だよりに、学校経営の4つの柱（①学力向上②からだ力向上③道徳授業の充実④インクルーシブ教育）について書いてきました。今日は最後の「インクルーシブ教育」について書きます。「インクルーシブ」とは「包み込む／包摶する」というような意味があります。「インクルーシブ」の反対語が「エクスクルーシブ」で「排除する／除く」という意味なので、きわめてシンプルにいえば「インクルーシブ教育」＝排除しない教育、といえます。

ユネスコではインクルーシブな学校を次のように位置付けています。

- ①すべての児童・生徒が属し、受け入れられ、援助を受けられる場であり、同級生や仲間、学校社会の全員にサポートされる場
- ②子どもによって異なる学習スタイルやペースを受容し、それを育む場
- ③適切なカリキュラム、学校組織、リソースの利用、

地域社会とのパートナーシップを通して教育の平等を保障する場

「すべての児童・生徒」とは障害のある児童・生徒のみを指している訳ではありません。外国人籍、マイノリティ、なんらかの支援の必要がある子など、「すべての児童・生徒」の中には様々な子供たちがいます（桃一小では、「学習に課題がある」「生活面で課題がある」子供たちも、すべてインクルーシブ教育の対象、ととらえています）。

文部科学省は「インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点での教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である。」と述べています。

桃一小では、「できないことをほったらかしにしない」を一つのスローガンに、少しずつインクルーシブ教育へと歩みを進めていこうと思います。「できない」と結論付けるのではなく、「どうすれば（どんな支援があれば）できるのか」ということを考えていく、ここをインクルーシブ教育の出発点と考え、実践を進めていきます。

学校ニュース

* 3年1組担任の吉岡クミ教諭は、2月10日より産休に入ります。2月10日からは、田部崇主幹教諭が担任となります。

令和2年度 桃一小あいさつ標語大賞

あいさつキャンペーンの一環として、今年もあいさつ標語の取り組みを行いました。

入選作品を紹介します。なお、入選作品は校長室前に掲示してあります。

1年	「さようなら あかるいにえで あったかい」	1年1組 児童
2年	「ともむすぶ まほうのちから あいさつよ」	2年3組 児童
3年	「マスクでも あいさつしよう 寒い朝」	3年5組 児童
4年	「あいさつは 心を結ぶかけ声だ」	4年1組 児童
5年	「おはようで 心の中に 花が咲く」	5年4組 児童
6年	「ご近所の おじちゃんに あいさつだ」	6年2組 児童



生活指導部より 2月の生活目標 「健康に気を付けよう」

緊急事態宣言が発令されている中、子供たちは新型コロナ感染拡大防止に努めながら、元気に過ごしています。

心も体も、健康の基本は生活習慣です。「十分な睡眠をとる」、「バランスのとれた食事をとる」など、正しい生活リズムを身につけ、病気に負けない体を作りましょう。また、病気の予防には「うがい・手洗い・消毒・換気」が大切です。寒いからといって部屋を閉め切ったままにせず、新鮮な空気を取り入れましょう。外から戻ったら手を洗い、うがい、消毒を習慣づけられるといいですね。学校でも、引き続き、「うがい・手洗い・消毒・換気」を徹底し、子供たちが健康に過ごせるようしていきます。

読書旬間

《2月8日（月）～19日（金）》

桃一小では6月と2月の年に2回、2週間の読書旬間があります。この期間中は、朝の8時30分にオルゴールの音楽が流れ始めると10分間の校内一斉の読書タイムとなり、子供たちはそれぞれ本の世界を楽しんでいます。6月の読書旬間には、おすすめの本の紹介カードを廊下や教室に掲示しました。2月の読書旬間後には、読んだ本の感想カードを教室に掲示する予定です。

友達の読書感想文を読んだり、本の紹介をし合ったりすることで、読書への関心を高め、読書の幅を広げていってほしいと思います。ご家庭でもテレビを消して、親子で読書や読み聞かせを楽しむ時間をもってみてください。

桃一小の研究

学校教育目標の「思いやりのある子」を重点目標に掲げてから2年目になりました。昨年度から引き続き今年度も、「自己を見つめ、学び合う児童の育成～自分の考えをもち、伝え合うことのできる道徳の授業づくりを通して～」をテーマに研究を進めてきました。道徳科の研究の2年目は、児童の実態を踏まえ、内容項目の指導の観点をB「主として人との関わりに関するこころ」に決め、各分科会に分かれて話し合いを行いました。

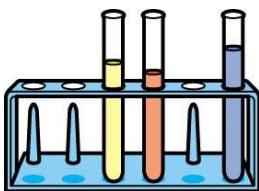
今年度はコロナ禍の中、自分の考えを伝え合うことが難しかったため、どのように伝え合えばよいか、また、自己の生き方の考え方をどのように深めさせたらよいか、分科会で様々な方法を考え、授業づくりをしてきました。ロイロノートを活用したり、伝え合いの仕方を工夫したりすることで、考え方を深めようとする児童の姿が見られました。

「自分の考え方をもち、伝え合う」ことで、子供たちは、周りの人たちの考え方を受け入れて、自分の考え方をさらに深めています。自分を見つめ、更に学びを深めようとする気持ち、そして「思いやりのある子」をこれからも育てていきたいと考えています。

専科の授業紹介

理科

「なんだろう?」「なぜだろう?」という疑問から、予想(考え)をもち、観察したり、実験方法を考えて実験したりしています。



実験・観察を通して体験することで、より理解が深まり、自分なりの考察が出てきます。また、一人一人の結果の違い、予想と結果の違いなどからも、なぜ違ったのか、それぞれの意見を出し合って、考察していきます。また、体験するだけではなく、理科の学習は私たちの生活の中で役立っているのだと、結び付けられるような授業を目指しています。

音楽

音楽では、「音」を表現する「楽」しさ、知る「楽」しさ、想像する「楽」しさ、みんなで音を重ねる「楽」しさを感じてもらいたいという思いを込めて、日々授業を行っています。

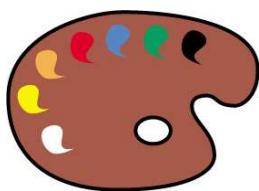
今年度は新型コロナウィルスの影響により、歌唱やリコーダー、鍵盤ハーモニカの活動を十分に行うことができませんが、そんな中でも、いろいろな形で音楽を表現できるよう進めています。

美しい音や音色に気付き、表現したいという思いをもち、音を奏でる活動を心から楽しんでもらえることを願っています。



図工

図工の授業では、色や形、いろいろな材料に親しみながら、自分の考えを作品に表現しています。「あ!いいこと考えた!」というつぶやきが聞こえる時は、図工の授業中ならではの楽しい時間です。時にはアイデアに悩み、どうやって実現しようか、何がしたいのか、課題にぶつかることもあります。



課題解決型の学習としての図工は、答えが決まっていない問題の答えを、自分なりに見付ける学習です。絵や工作を楽しむ気持ちを大切にしながら、考える力を付けてほしいと願っています。

外国語

外国語科・外国語活動では、身近な物の名前や表現に十分に慣れ親しみ、コミュニケーションの中で自分の思いや考えが表現できるように活動を組み立てています。5、6年生は、既習事項を活用しながら、思いや考えを聞いたり話したりすることに加え、読んだり書いたりする活動も取り入れています。今年度は感染症対策のため、活動は制限されていますが、「英語でやりとりすることの楽しさ」や「外国の文化を知ることの面白さ」を感じられるような授業を目指しています。

